

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 9	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Cardiovascular risk profile and type of alcohol beverage consumption: a population-based study. 心血管危険因子プロファイルと摂取するアルコール飲料の種類: 地域住民をベースとした研究	
執筆者	
Schroder H, Ferrandez O, Jimenez Conde J, Sanchez-Font A, Marrugat J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Nutr Metab. 2005 Mar-Apr;49(2):100-6.	
キーワード	
飲酒、心血管系リスク、コレステロール、アルコール飲料	
要 旨	
<p>適量飲酒は冠状動脈性心疾患 (CHD) による死亡率を減少させる。適量飲酒によるアルコールの摂取は凝結因子や内皮機能、リポタンパク質代謝に影響を与え、CHD による死亡率減少に影響を与えていると考えられている。CHD はスペインにおいて主要な死因である。スペインはヨーロッパ諸国の中でもアルコール消費量がトップであり (ただし、スペイン男性の消費量は最も高いが、スペイン女性の消費量は最も少ない)、ワインが好んで飲まれている。一方、フランスでも同様にワインが好んで飲まれているが、CHD による死亡率が低いことが知られている。CHD への適量飲酒の影響がアルコール飲料の種類によるものか、またはアルコール飲料中のエタノール成分によるものか、非エタノール成分の構成成分によるものかはまだ結論が出ていないと思われる。本研究ではエタノール摂取量、摂取するアルコール飲料の種類と心血管系への影響を調べた。試験には 25-74 歳の 2383 名のスペイン人男性と 2535 名のスペイン人女性のデータを用い、飲酒状況について質問を行った。また、血圧と脈拍を測定し、血液サンプルを用いて総コレステロール、HDL コレステロール、中性脂肪、絶食時血糖値、フィブリノーゲン、リポタンパク質を心血管系危険因子の項目として測定した。この結果、男性は 1 日当りエタノール換算で平均 19.5g、女性は平均 4.5g を摂取していた。1 日当り 2 杯以上のワインを摂取するのは男性で 35.3%、女性で 3.5% であった。女性では飲酒量が増加するにつれ、HDL コレステロールが上昇し、フィブリノーゲンが減少した。男性では飲酒量が増加するにつれて、HDL コレステロールが上昇し、フィブリノーゲンが減少しただけでなく、同時に総コレステロール、中性脂肪、脈拍、血圧 (最高、最低) の上昇も見られた。また、摂取したアルコール飲料タイプ別 (ワイン、ビール、スピリッツ) の影響を見たところ、ワイン摂取が特に女性で心血管系危険因子プロファイルへの良い影響をもたらしていた。しかしながら、年齢、アルコール摂取量、身体活動量、喫煙、教育レベル、ボディマス指数 (BMI)、高血圧や高脂血症の治療薬の使用等のデータで補正を行なうと、心血管系危険因子プロファイルとアルコール飲料タイプとの関係はほとんど見られなくなった。以上より、アルコール摂取は男性ではなく、特に女性において、心血管系危険因子プロファイルへ好ましい影響を及ぼすことが示唆された。また、アルコール飲料のタイプではなくて、総アルコール摂取量が心血管系危険因子プロファイルに関係していると考えられた。</p>	